

安全データシート

1. 物質または混合物および会社情報

製品名： Bond365™ Adhesive Part B
 製品コード： CH-C36.5B
 推奨用途： 接着剤に使用するエラストマー材料。
 会社名： Comfort Hoof Care, Inc.
 住所： 420 Commerce Avenue; Baraboo, WI 53913; USA
 電話番号： 00+1-608-356-3834 FAX 番号： 00+1-608-356-6112
 緊急電話番号： は利用できません。
 発行日： 2019年02月19日 改訂版の日付： 2019年02月19日

この安全データシートは、日本の規格や規制に準拠しています。それは他の国々の要件を満たしていてもよい。

2. 危険有害性の要約

GHS-分類： 危険
 生殖毒性 (区分 1)
 急性毒性-経口 (区分 4)
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 (区分 1)
 皮膚腐食性/刺激性 (区分 2)
 感作性-皮膚 (区分 1)
 反復暴露 (区分 2)
 水生環境-急性有害性 (区分 2)
 水生環境-慢性有害性 (区分 2)



GHS-危険有害性情報： 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 飲み込むと有害
 重篤な眼の損傷
 皮膚刺激
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害
 長期継続的影響により水生生物に毒性

GHS-注意書き：	安全対策 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。	応急措置 ただちに医師に連絡すること/病院。 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
-----------	--------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

2. 危険有害性の要約

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。	いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
取扱後は手/皮よく洗うこと。	皮膚についた場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。	漏出物を回収すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。	
環境への放出を避けること。	
保管	廃棄
施錠して保管すること。	内容物/容器を有害廃棄物へに廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性：

なし。

GHS アセスメント：

未知の毒性成分から成る混合物のパーセンテージ： < 1%。

水生環境に対する未知の危険有害性成分から成る混合物のパーセンテージ： < 1%。

3. 組成および成分情報

化学名	CAS 番号	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	含有量
アリアルアミン	営業秘密	含まれない	25.0 - 40.0%
高分子アミン	営業秘密	含まれない	25.0 - 40.0%
オレイン酸	112-80-1	(2)-609 (2)-975	10.0 - 25.0%
ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン	68479-98-1	(3)-3638 (3)-3639	5.0 - 10.0%
有機スズ化合物	営業秘密	含まれない	0.1 - 0.5%

提供者の現在の知識の範囲および該当する濃度では、本製品の補足的な成分の中には健康または環境に対して有害危険性であると分類されるためこのセクションで報告が義務づけられている成分は含まれていません。

職業性暴露限界がある場合、セクション 8 に記載されている。

4. 応急措置

目に入った場合： すぐに多量の水で (少なくとも 15 分間)、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合： 多量の石鹼と水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および

4. 応急措置

- 靴を脱がせる。症状が現れたら、医師の診断を受ける。汚染された衣類を再使用す場合には洗濯をすること。
- 飲み込んだ場合： 水で口を洗浄する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。意識のない人には、絶対に、口から何も与えてはいけない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が現れたら、医師の診断を受ける。必要に応じて酸素または人工呼吸。
- 最も重要な徴候及び症状： 組織の炎症、組織の損傷、発疹、吐き気、呼吸困難。
- 医師に対する特別な注意事項： 症状に対応した対処療法を行うこと。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 現地の状況と周囲環境に応じて適切な消火手段を使う。水噴霧、ドライケミカル、二酸化炭素または泡をお勧めします。二酸化炭素は、酸素を置換することができる。限られたスペースで二酸化炭素を適用するときは注意してください。
- 火災時の特有の危険有害性： この製品は引火性ではありません。火災時に発生する危険・有害分解物質。火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。
- 消火を行う者の保護： 自給式呼吸装置と保護服を着用する。
- その他のアドバイス： 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

6. 漏出時の措置

- 封じ込め及び浄化の方法・機材： せき止める。不活性の吸収材で吸収させる。大規模の漏洩: 可能なら、流出物を囲い込む。回収して、正確なラベルのついた容器に移す。適切な溶媒で洗い流しエリア。
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 保護服を着用する。
- 環境に対する注意事項： 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。第12項、環境影響情報を参照。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い： 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。作業領域は、眼洗浄ステーションと安全シャワーを装備する必要があります。一般的な取り扱い: 眼、皮膚、衣服との接触を避ける。取り扱った後は十分に手を洗うこと。ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。換気の良い場所で使用してください。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 保管： 現地法に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で。(熱、直射日光、紫外線光源、熱い金属表面)を避ける。混合禁止物質(セクション 10 を参照)を避ける。25°C 以下にこの材料を保管。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。
- その他のアドバイス： 元の容器に保管してください。メーカーの指示に従って保管してください。

8. ばく露防止および保護措置

- 職業ばく露限界値： 職業性暴露限界値（既存の場合）。
- アリアルアミン： なし。
- 高分子アミン： なし。
- オレイン酸： なし。
- ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン： メーカー REL: 0.1 mg/m³ TWA (時間加重平均送受信)。
- 有機スズ化合物： (有機錫化合物として)
ACGIH PEL: 0.1 mg/m³ TWA (時間加重平均送受信)。
ACGIH PEL: 0.2 mg/m³ STEL (短期暴露限界)。
OSHA PEL: 0.1 mg/m³ TWA (時間加重平均送受信)。
NIOSH REL: 0.1 mg/m³ TWA (時間加重平均送受信)。
- 設備対策： 行程囲壁、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空中浮揚汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。
- 呼吸器の保護具： リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。
- 手の保護具： リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。
- 目の保護具： 承認された眼の保護具を着用してください（サイドシールドまたはゴーグル付きの安全眼鏡）。使用条件によっては、フェイスシールドが必要になる場合があります。
- 皮膚及び身体の保護具： この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

9. 物理的および化学的性質

- 物理的状态： 液体
- 色： クリア、ブルー、オレンジ、レッド
- 臭い： アンモニア性、アミン様
- 臭いの閾値： データなし。

9. 物理的および化学的性質

pH：	データなし。
融点/凝固点 (°C)：	データなし。
初留点と沸点範囲 (°C)：	> 180°C
引火点 (°C)：	> 113°C
蒸発速度：	データなし。
燃焼性(固体、ガス)：	製品は引火性ではない
引火または爆発範囲の上限/下限：	データなし。
蒸気圧：	0.3 mmHg (20°C)
蒸気密度：	空気より重い。
比重：	1.03 (23.9°C)
溶解度：	部分的に可溶
n-オクタノール/水分配係数：	データなし。
自然発火温度 (°C)：	> 300°C
分解温度 (°C)：	データなし。
粘性率：	データなし。
爆発性：	該当せず。分類されていない。
酸化的性質：	該当せず。分類されていない。
VOC 揮発性 (g/l)：	約 610 - 650 g/l

10. 安定性および反応性

反応性：	製品の付加反応を受けることはありません。一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
化学的安定性：	生成物は、通常の貯蔵条件下で安定である。
危険有害反応性の可能性：	通常の貯蔵および使用条件下で、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件：	と連絡混触危険物質と過度の熱。
混触危険物質：	強力な酸化剤、強酸、湿気。
危険有害性のある分解生成物：	炭素の酸化物、窒素酸化物、硫黄酸化物、アミン、金属酸化物、脂肪族および芳香族化合物、有毒な副産物。

11. 有害性情報

与えられた情報は、成分のデータに基づいています。

急性毒性：	飲み込むと製品は、有害である可能性がある。 (アリアルアミン) 50%致死量(LD50) - 経口(ラット) 1515 mg/kg; 50%致死量(LD50) - 経皮(ウサギ) > 2000 mg/kg。 (高分子アミン) 50%致死量(LD50) - 経口(ラット) > 2500 mg/kg; 50%致死量(LD50) - 経皮(ウサギ) > 5000 mg/kg。 (オレイン酸) 50%致死量(LD50) - 経口(ラット) 74000 mg/kg; 50%致死量(LD50) - 経皮(ギニアピッグ) > 3000 mg/kg。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

11. 有害性情報

- (ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) 50%致死量(LD50) - 経口(ラット) 約 738 mg/kg; 50%致死量(LD50) - 経皮(ラット) > 2000 mg/kg。
(有機スズ化合物) 50%致死量(LD50) - 経口(ラット) 510 mg/kg。
- 皮膚腐食性 / 刺激性： 製品は、皮膚に刺激を与える可能性があります。
(アリールアミン) 皮膚に対して非刺激性(ウサギ)。
(高分子アミン) 皮膚を刺激する可能性があります。
(オレイン酸) データなし。
(ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) 皮膚に対して非刺激性(ウサギ)。
(有機スズ化合物) 皮膚刺激薬。
- 眼に対する重大な損傷/刺激性： 製品は重度の眼への刺激/損傷を引き起こす可能性がある。
(アリールアミン) 目にはわずかな刺激性(ウサギ)。
(高分子アミン) 目への損傷を引き起こすことがあります。
(オレイン酸) データなし。
(ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) 眼刺激物(ウサギ)。
(有機スズ化合物) 重度の眼刺激性。
- 呼吸器感作性 / 皮膚感作性： 製品は、皮膚感作を引き起こすことがあります。
(アリールアミン) 皮膚増感剤(ギニアピッグ)。
(高分子アミン) 皮膚増感剤(マウス)。
(オレイン酸) データなし。
(ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) アレルギー性皮膚反応はありません(ギニアピッグ)。
(有機スズ化合物) データなし。
- 変異原性： 生成物は、遺伝子突然変異を生じさせることができます。分類に利用できるデータが不十分です。
(アリールアミン) あいまいな結果(エイムズテスト)。
(高分子アミン) 変異原性ではない(エイムズテスト)。
(オレイン酸) 変異原性ではない(エイムズテスト、DNA 損傷テスト)。
(ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) あいまいな結果(哺乳類染色体異常試験、哺乳動物細胞遺伝子突然変異アッセイ)。変異原性ではない(小核アッセイ)。
(有機スズ化合物) 遺伝的影響を引き起こすと疑われる。
- 発がん性： 生成物は、癌を引き起こすことが予想されない。
(アリールアミン) データなし。
(高分子アミン) データなし。
(オレイン酸) 15-16 週間にわたって週 2 回 25 mg / kg を注射されたマウスでは、腫瘍の発生率は増加しなかった。
(ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) 2 年間の発がん性試験(経口投与によるラット)では、肝臓、甲状腺および乳腺に腺腫が観察された。しかしながら、これらの効果は試験中の動物の有意な体重減少を伴った。
(有機スズ化合物) データなし。
- 生殖毒性： 製品は、生殖毒性を引き起こす可能性があります。
(アリールアミン) データなし。
(高分子アミン) データなし。

11. 有害性情報

	(オレイン酸) データなし。 (a r, a r-ジエチル- a r-メチルフェニレンジアミン) 妊娠中に最大 20.45 mg / kg / 日で経口ばく露されたラットでは、観察された効果は母体毒性の二次的なものとみなされた。 (有機スズ化合物) 同様の化合物は実験動物において生殖効果を示した。
特定標的臓器毒性 - 単回ばく露：	(アリールアミン) データなし。 (高分子アミン) データなし。 (オレイン酸) データなし。 (a r, a r-ジエチル- a r-メチルフェニレンジアミン) データなし。 (有機スズ化合物) データなし。
特定標的臓器毒性 - 反復ばく露：	(アリールアミン) ラットを用いた 28 日間の経口試験では、最大 400 mg / kg / 日の毒性影響は見られなかった。 (高分子アミン) データなし。 (オレイン酸) データなし。 (a r, a r-ジエチル- a r-メチルフェニレンジアミン) ラットでの 90 日間の経口試験で、肝臓、腎臓および脾臓に影響が見られました。 (有機スズ化合物) データなし。
吸引性呼吸器有害性：	製品は誤嚥の危険性をもたらすことはありません。
その他：	なし。

12. 環境影響情報

与えられた情報は、成分のデータに基づいています。

生態毒性：	生成物は、水生生物に対して毒性であり得ます。 (アリールアミン) 50%致死濃度(LC50) (ニジマス) 16.9 mg/l/96 hr; 50%効果濃度(EC50) (オオミジンコ) 0.9 mg/l/48 hr; 0%効果濃度(EC50) (藻類) 3.3 - 4.8 mg/l/72 hr。 (高分子アミン) 50%致死濃度(LC50) (魚) 68 mg/l/96 hr。 (オレイン酸) 50%致死濃度(LC50) (ファットヘッドミノウ) 205 mg/l/96 hr。 (a r, a r-ジエチル- a r-メチルフェニレンジアミン) 50%致死濃度(LC50) (井出魚) 200 mg/l/48 hr; 50%効果濃度(EC50) (オオミジンコ) 0.5 mg/l/48 hr; 50%効果濃度(ErC50) (藻類) 3104 mg/l/72 hr。 (有機スズ化合物) データなし。
土壤中の移動度：	(アリールアミン) データなし。 (高分子アミン) データなし。 (オレイン酸) データなし。 (a r, a r-ジエチル- a r-メチルフェニレンジアミン) データなし。 (有機スズ化合物) データなし。
残留性と分解性：	(アリールアミン) 易生分解性ではない (28 日間で 2%)。 (高分子アミン) 易生分解性ではない (28 日間で <5%)。 (オレイン酸) 土壤中の生分解半減期は約 30 日と推定されています。

12. 環境影響情報

	(ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) 易生分解性ではない (28 日間で<1%)。 (有機スズ化合物) データなし。
生物蓄積性：	(アリールアミン) データなし。 (高分子アミン) データなし。 (オレイン酸) の 56 推定生物濃縮係数。 (ar, ar-ジエチル-ar-メチルフェニレンジアミン) データなし。 (有機スズ化合物) データなし。
他の有害影響：	なし。

13. 廃棄上の注意

環境に対する注意事項：	川、池、湖、または下水道に流さない。地下層に浸透しないようにする。
残余廃棄物：	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(施行令第6条)に従って廃棄する。可能ならば、廃棄や焼却処理よりリサイクルする方が好ましい。
汚染容器・包装：	空き容器を廃棄処理する場合は、内容物を完全に除去し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(施行令第6条)に従って廃棄する。洗浄した容器包装は再生利用する。

14. 輸送上の注意

国連品名：	Environmentally hazardous substances, liquid, n.o.s. (Arylamine, Benzenediamine, ar,ar-diethyl-ar-methyl-) Not regulated (inner packaging quantity less than or equal to 5 liters) 規制されていません (5 リットル以下、内側包装数量)
国連番号：	UN3082
輸送における危険有害性クラス：	9
容器等級：	III
海洋汚染物質：	なし。(None)
輸送の特定の安全対策及び条件：	なし。(None)

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送の分類は、ボリュームによって変わる場合があり、各国固有の規制によって影響を受ける可能性がある。適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

米国インベントリー (TSCA) (有害物質規制法)：	すべてのコンポーネントはインベントリに記載されています。
-----------------------------	------------------------------

15. 適用法令

日本インベントリー (ENCS) (既存及び新規化学物質) :	すべてのコンポーネントはインベントリに記載されています (染色されていないバージョン)。			
消防法 :	第三石油類			
日本 - 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR) :	表示成分	CAS 番号		濃度
	有機スズ化合物		営業秘密 (1)-239	< 0.3%
毒物及び劇物取締法 :	表示成分	CAS 番号	毒物/劇物	濃度
	記載された成分なし。			
労働安全衛生法 - 名称等を通知すべき危険物及び有害物 :	表示成分	CAS 番号		濃度
	有機スズ化合物		営業秘密	< 0.3%

16. その他の情報

発行日 :	2019年 02月 19日		
バージョン番号 :	1.0	バージョン日付 :	2019年 02月 19日
変更履歴 :	v1.0 初期バージョン。		
定義および略語 :	GHS: 化学品の分類および表示に関する世界調和システム CAS: ケミカル・アブストラクト・サービス ACGIH: 米国産業衛生専門家会議 OSHA: 米国労働安全衛生局 TLV: 暴露限界 TWA: 時間加重平均送受信 PEL: 許容暴露限界 STEL: 短期暴露限界 WEEL: 作業環境曝露限界濃度 AIHA: 米国産業衛生協会 NTP: べいこくこっかどくせいプログラム IARC: 国際がん研究機関 LD50: 50%致死量 LC50: 50%致死濃度 EC50: 50%効果濃度 BCF: 生物濃縮係数 BOD: 生物学的酸素要求量 Koc: 有機炭素-水分配係数 IATA: 国際航空協会		
参照 :	United States National Library of Medicine's TOXNET (医学の米国国立図書館 TOXNET) Patty's Toxicology, 5 th Edition European Commission's Institute for Health and Consumer Protection (健康と消費者保護のための EU インスティテュート) American Conference of Governmental Industrial		

16. その他の情報

Hygienists (米国産業衛生専門家会議)
International Agency for Research on Cancer (国際がん研究
機関)
United States National Toxicology Program (べいこくこっ
かどくせいプログラム)
United States Occupational Safety and Health
Administration (米国労働安全衛生局)
United States Department of Transportation (米国運輸省)
Supplier Material Safety Data Sheets (サプライヤからの安全
性データシート)

免責事項： 我々の知見において、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその関連会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任を負うものではありません。製品の適合性については、ご使用者各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。

作成者： ChemOne Compliance, LLC